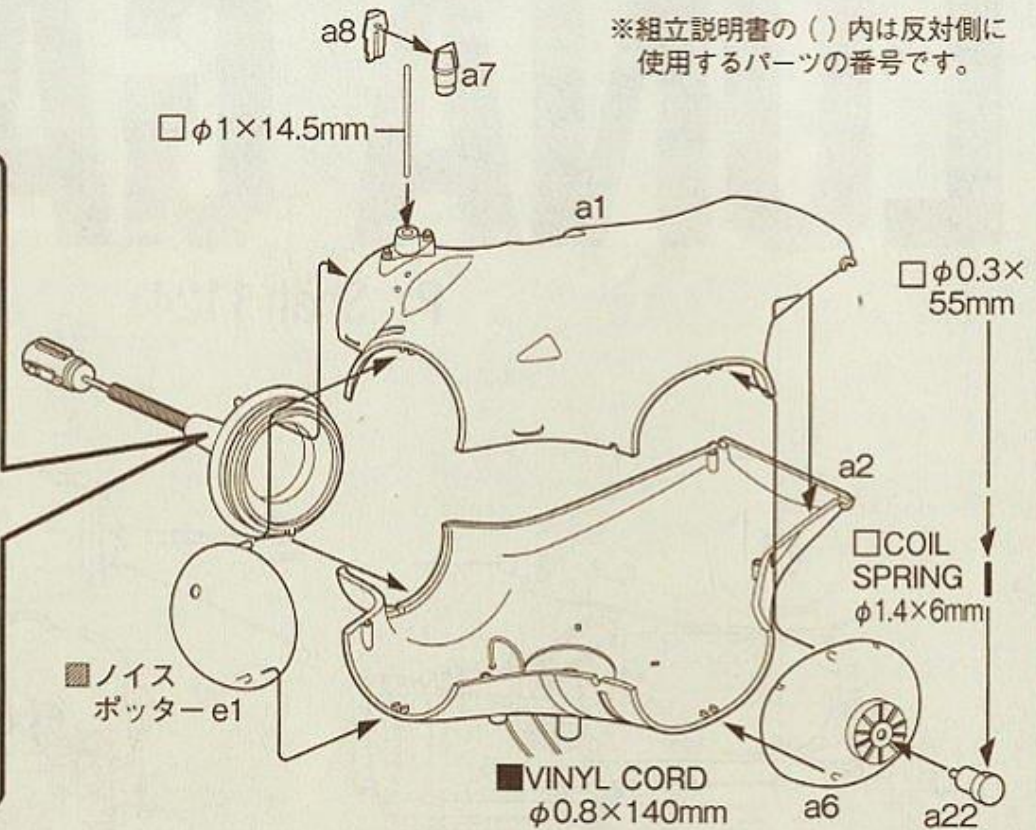
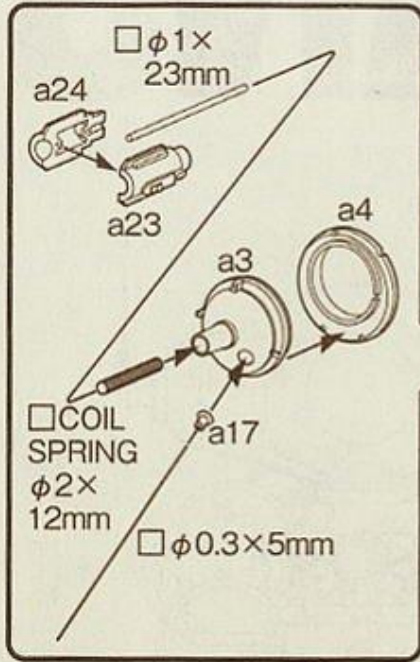


1 SENSOR UNIT



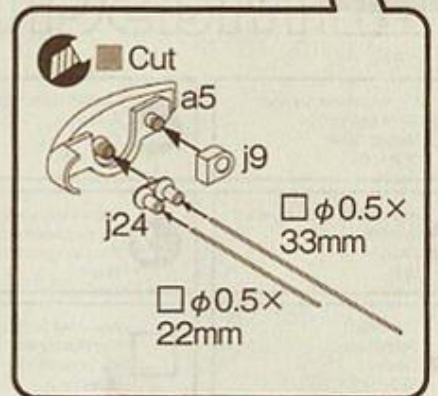
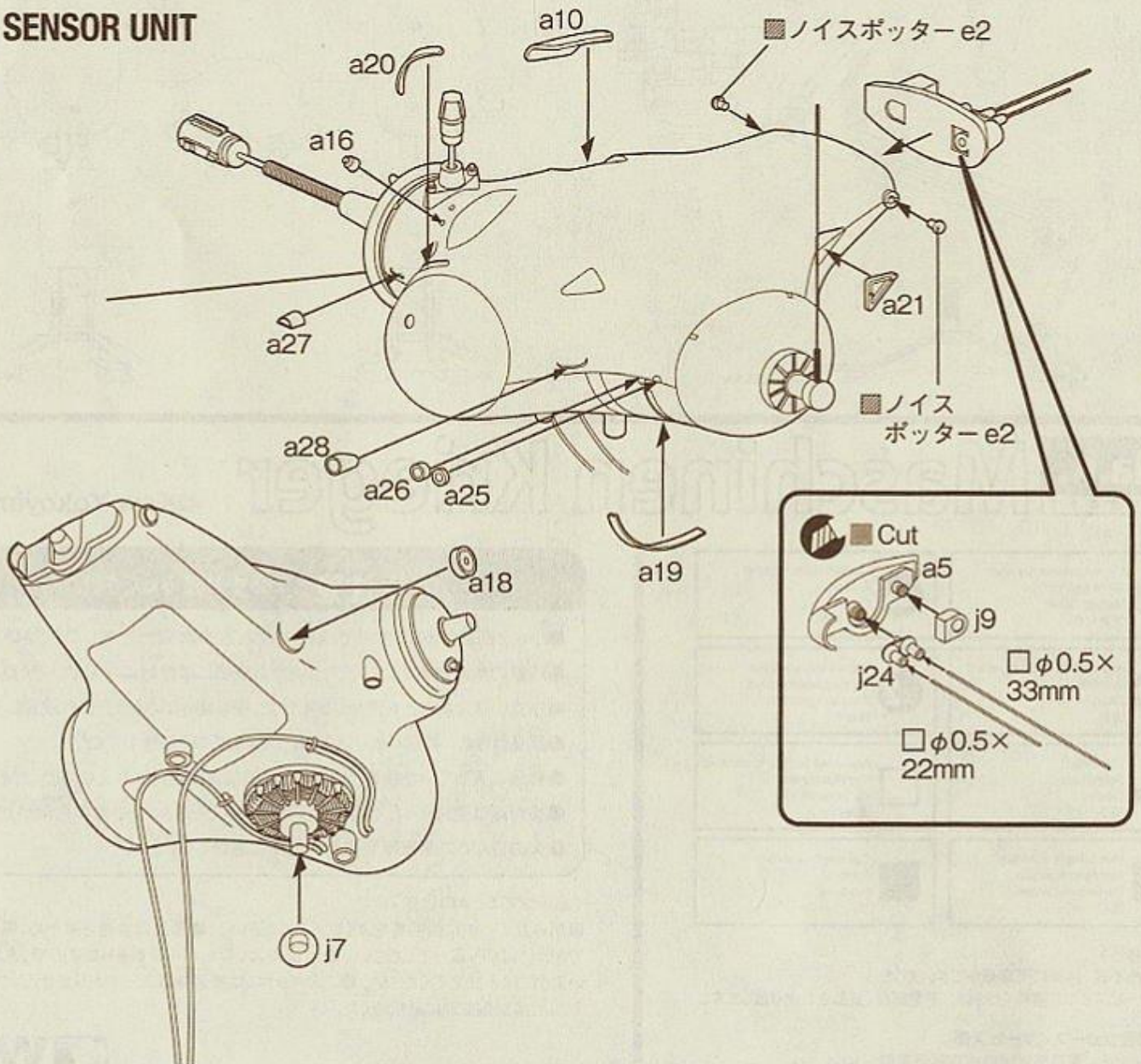
※組立説明書の()内は反対側に使用するパーツの番号です。



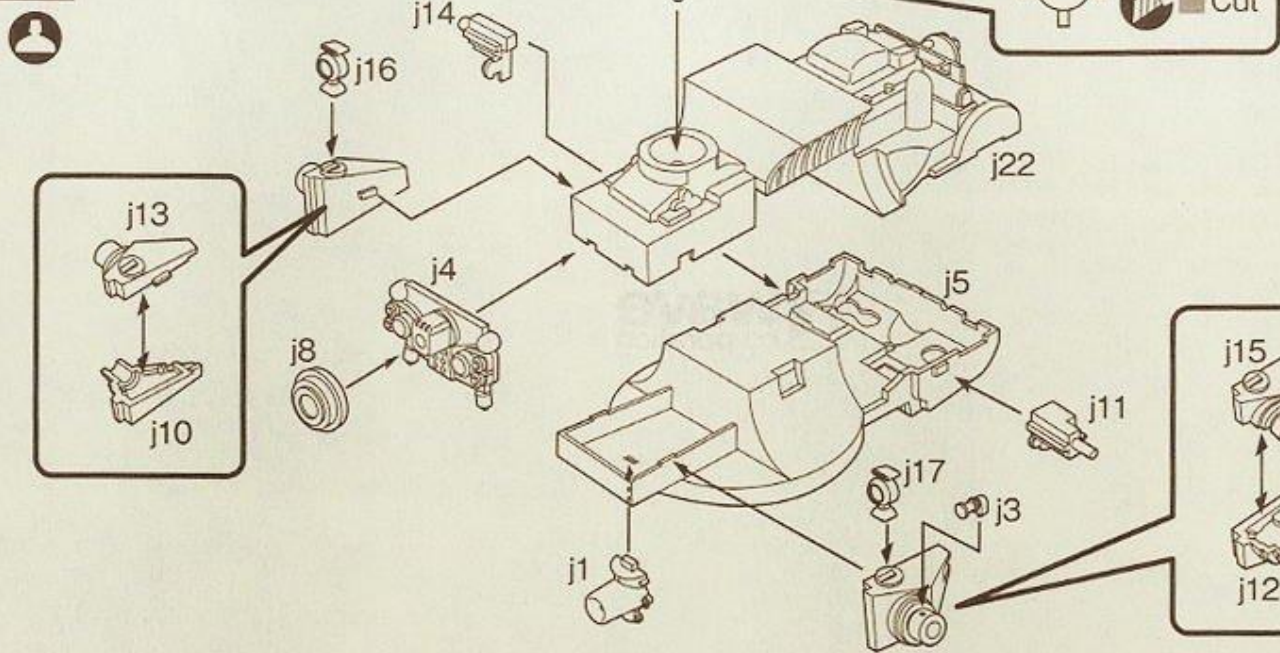
2 SENSOR UNIT



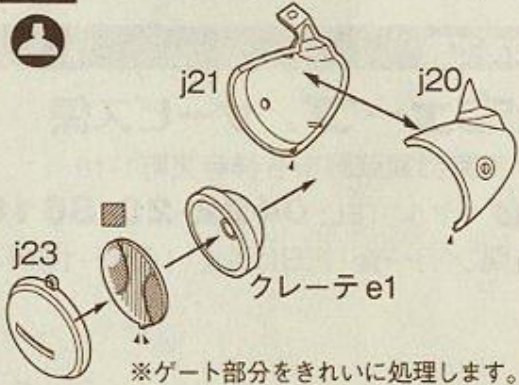
SENSOR UNIT



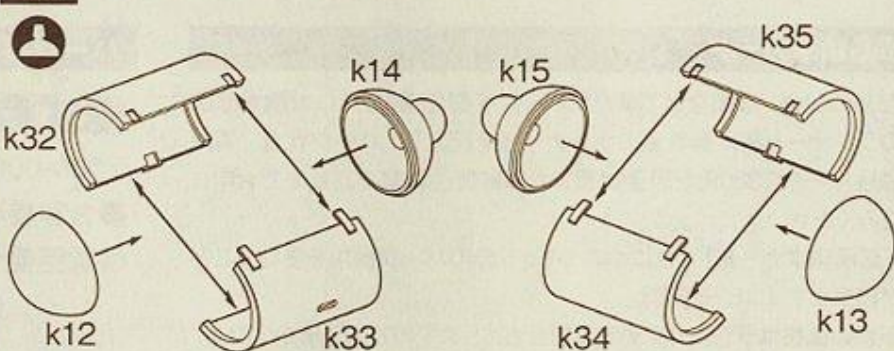
3 POWER UNIT



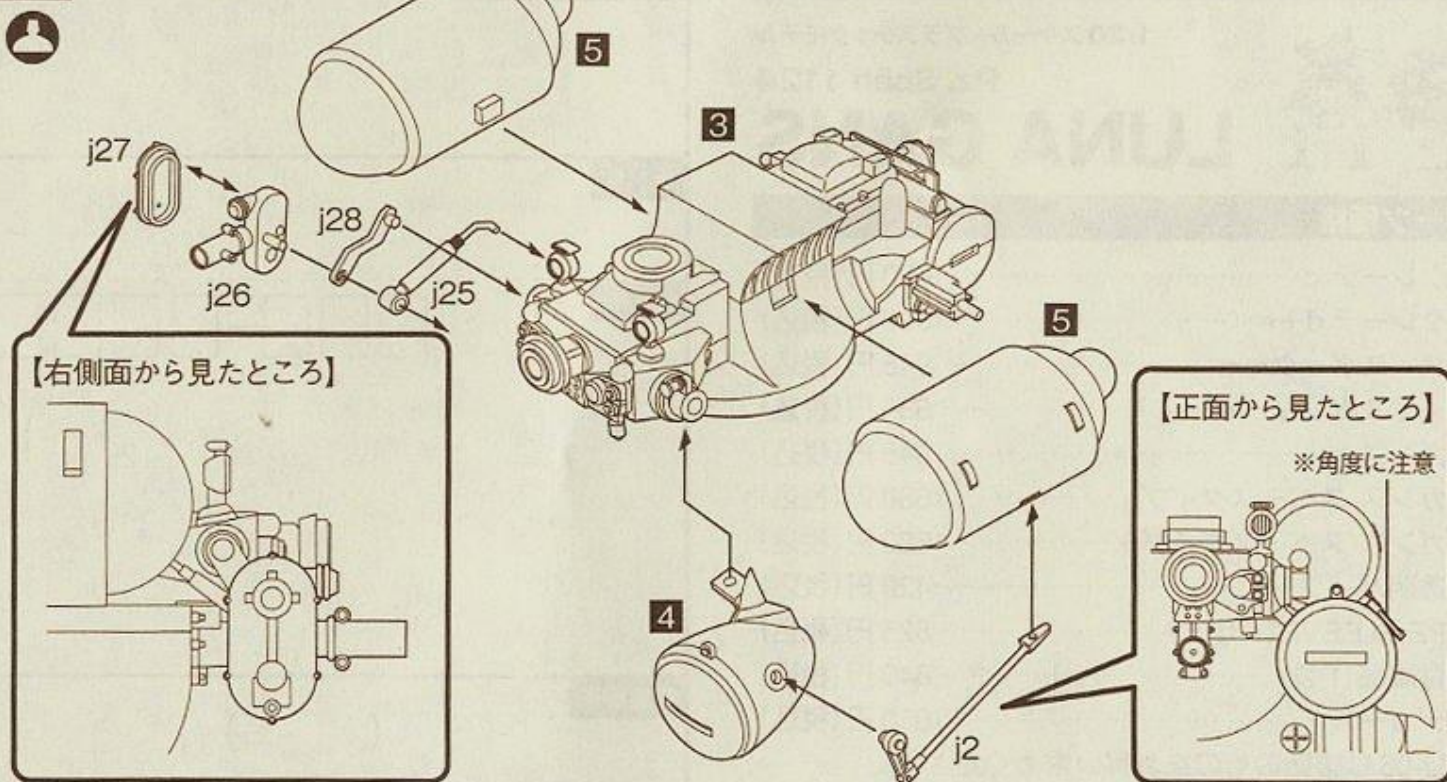
4 SEARCHLIGHT



5 PROPELLANT TANK

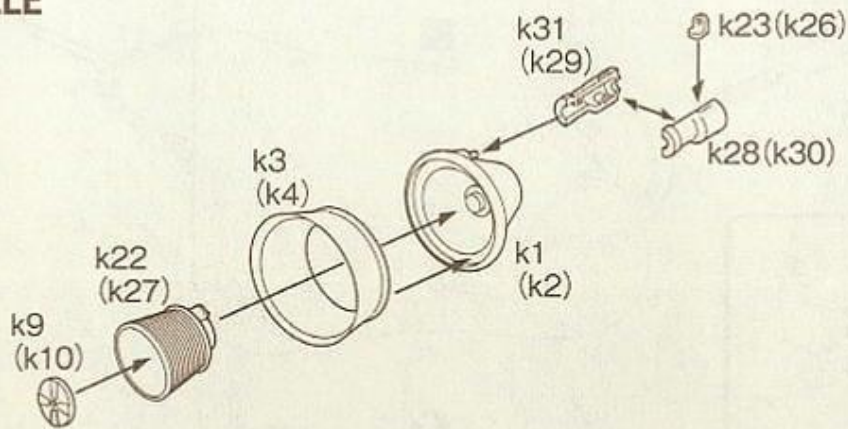


6 POWER UNIT



7 BURNER NOZZLE

1
x2

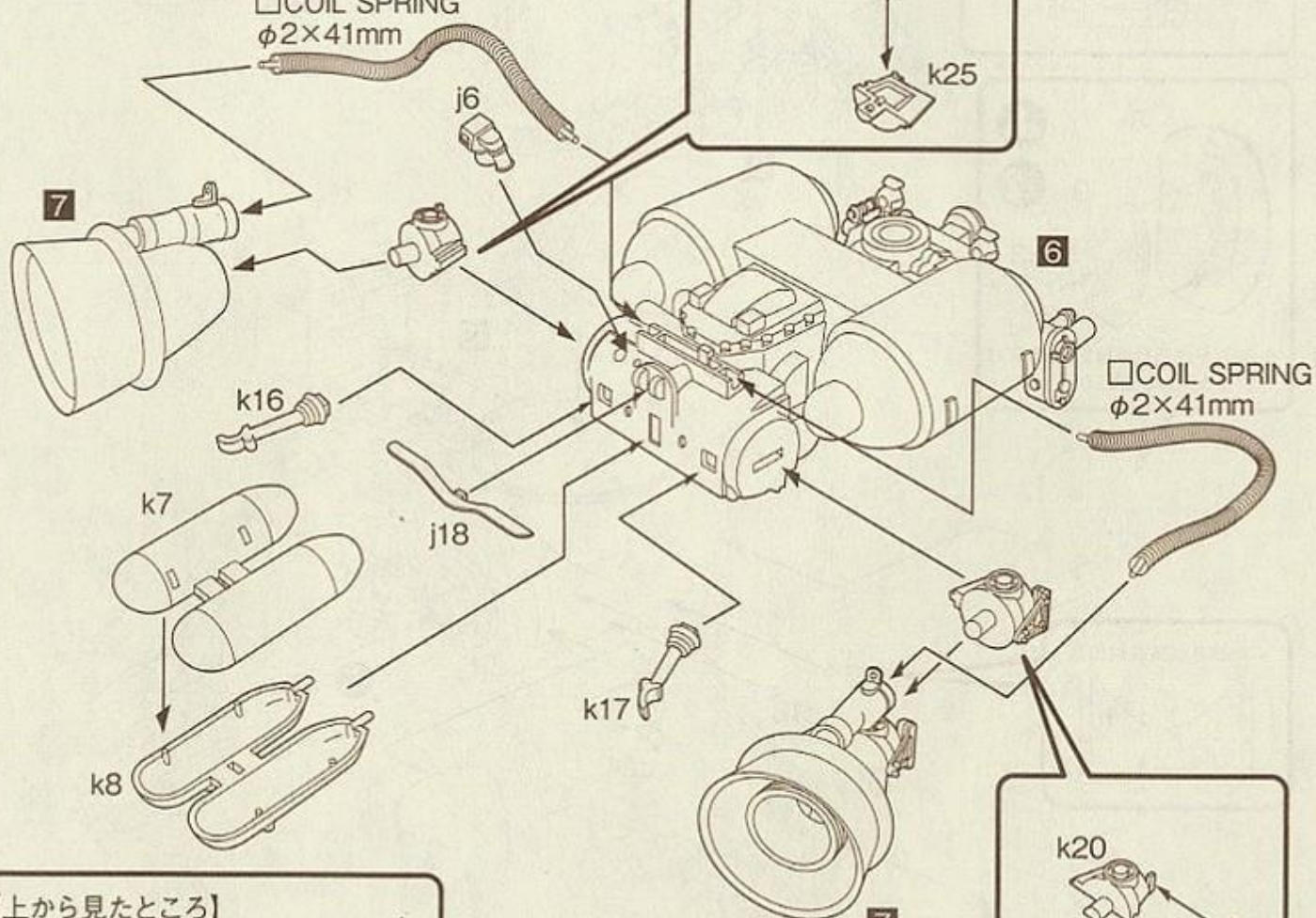
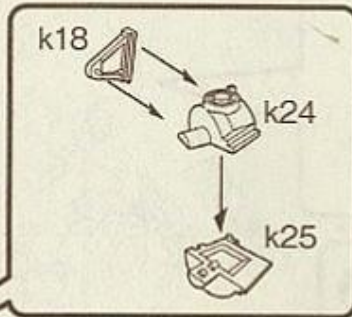


8 POWER UNIT

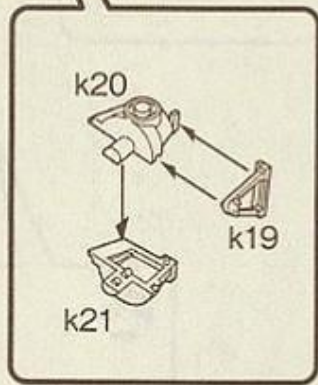
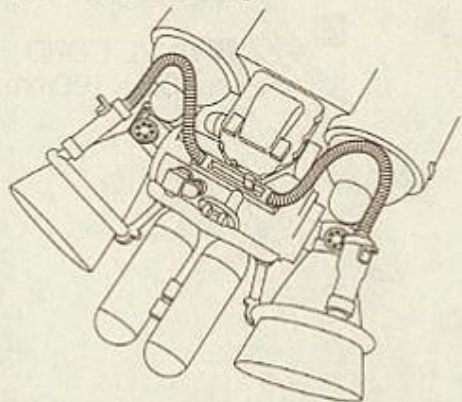
1

※コイルスプリングの中にビニールコードを入れてもいいでしょう。

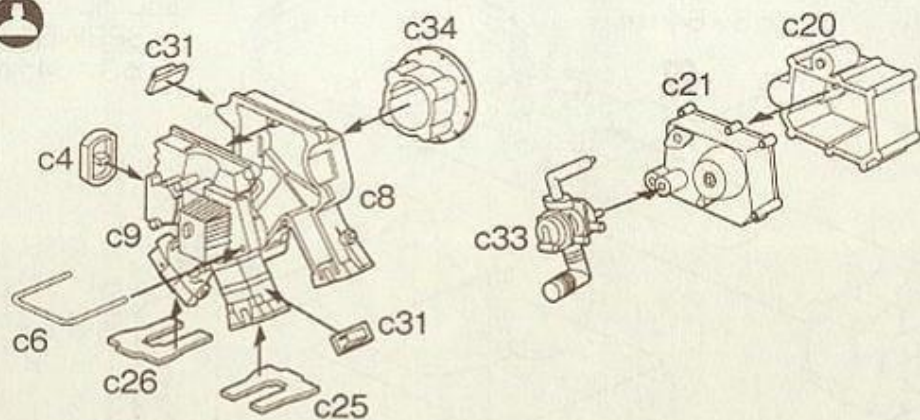
□ COIL SPRING
φ2×41mm



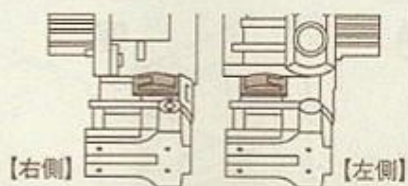
【上から見たところ】



9 ENGINE



c31取付位置



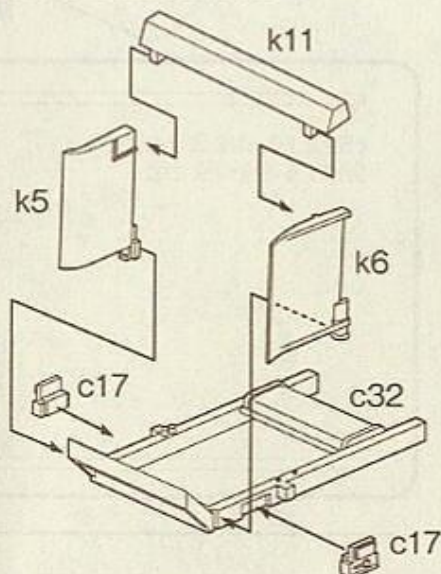
【右側】

【左側】

c6をφ1.0mm金属線
などで自作する場合
の原寸図



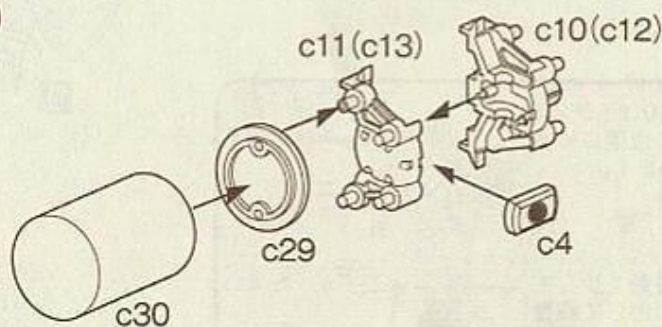
10 INSULATION FIN



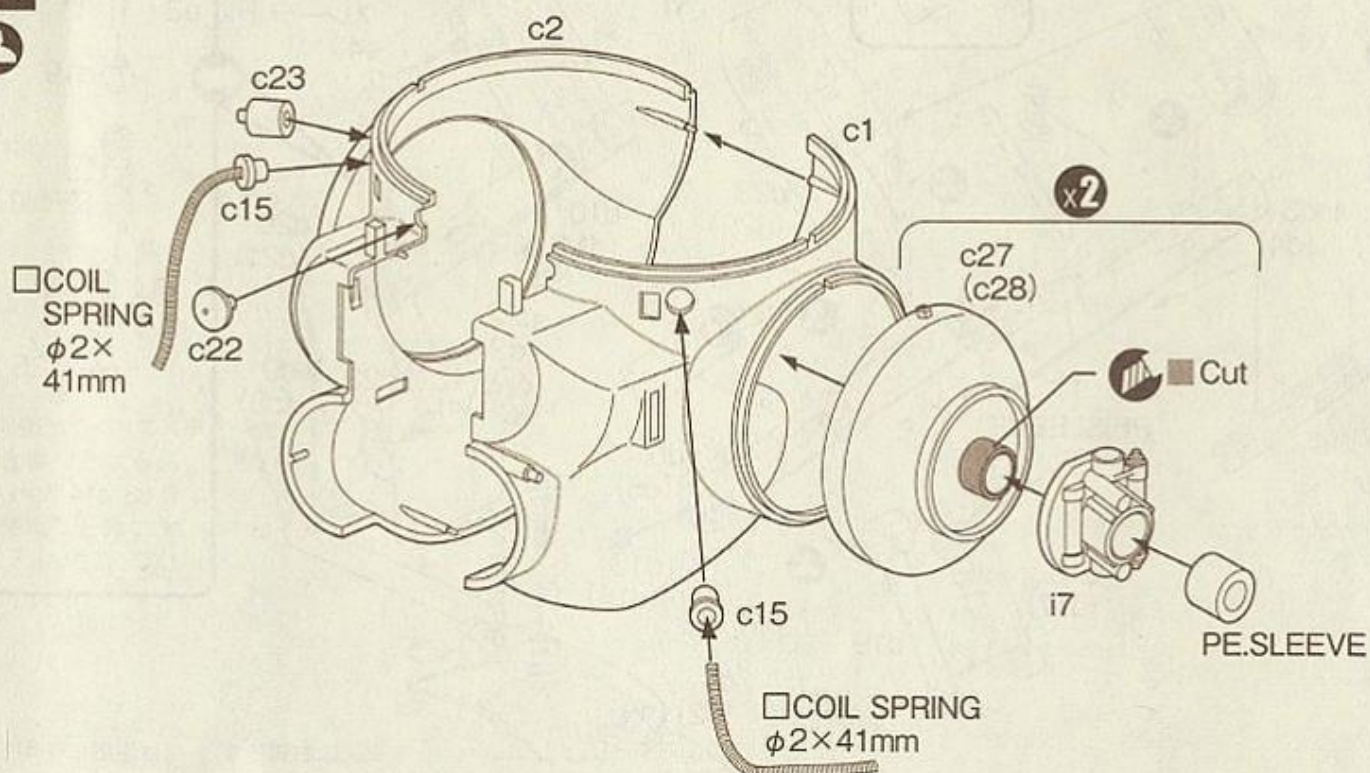
11 WALKING STABILIZER



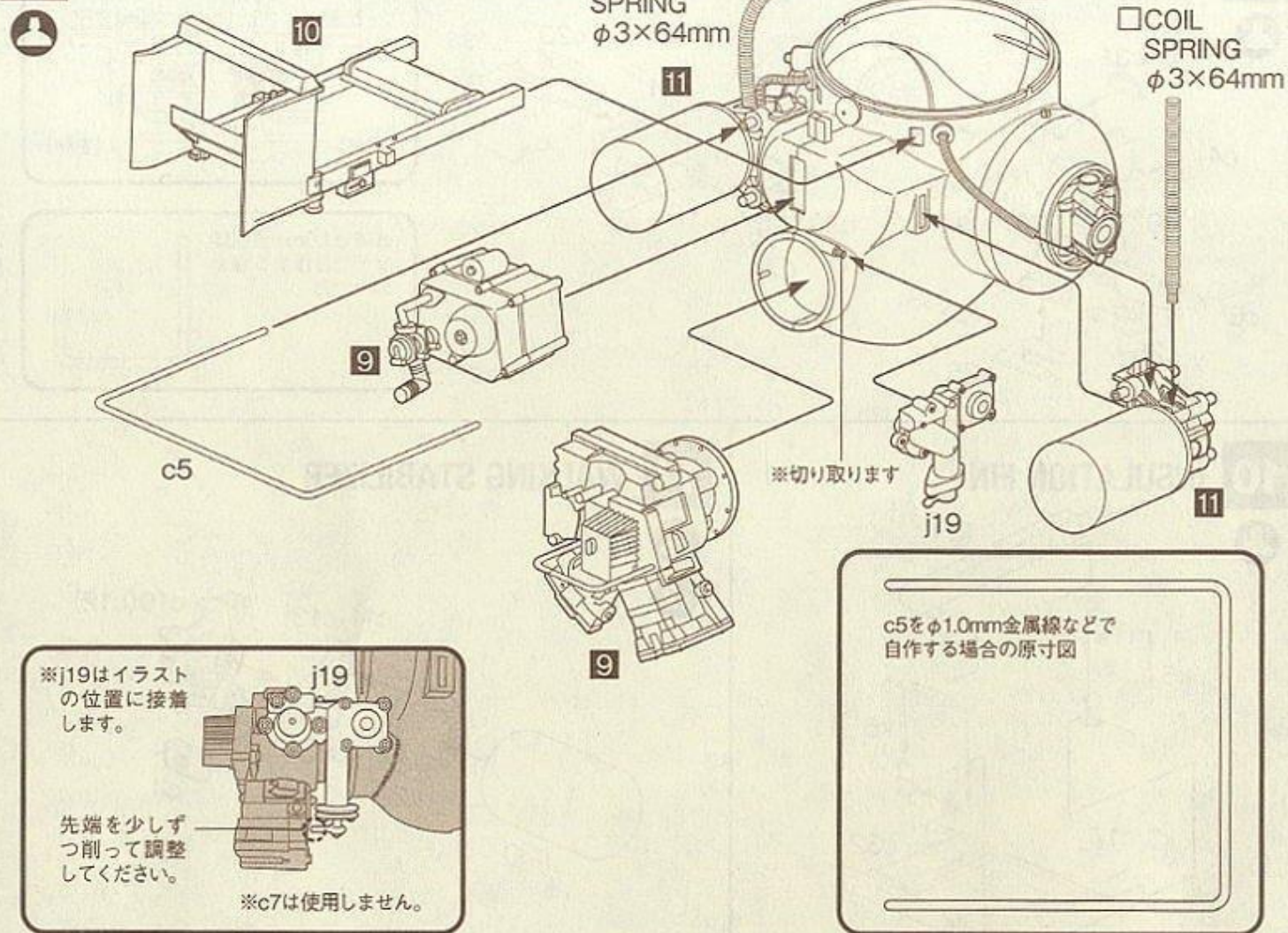
x2



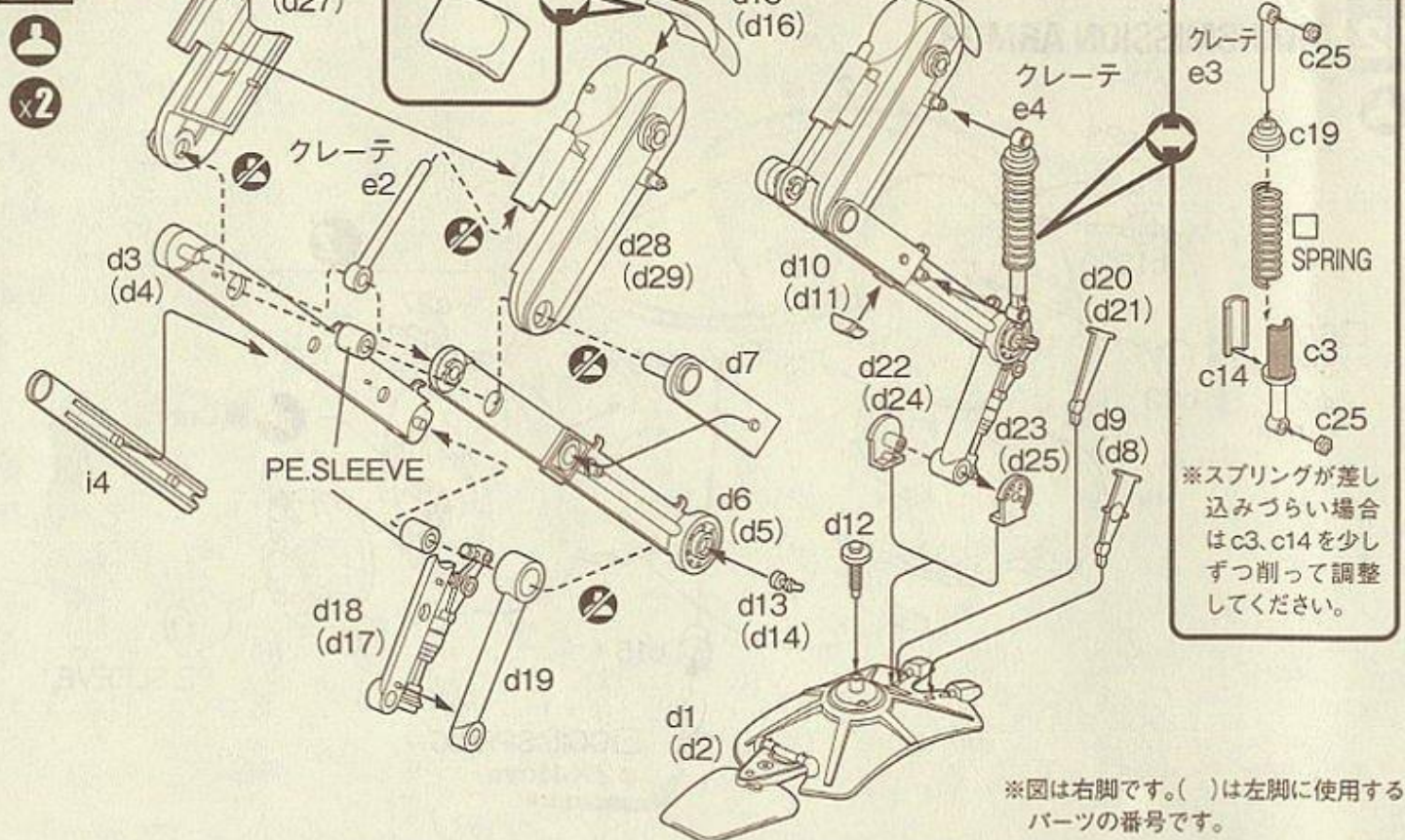
12 TRANSMISSION ARMOR



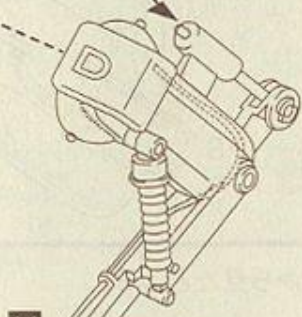
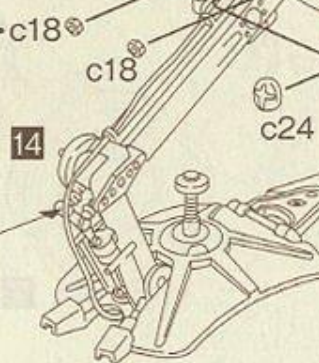
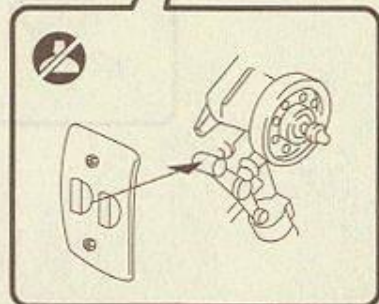
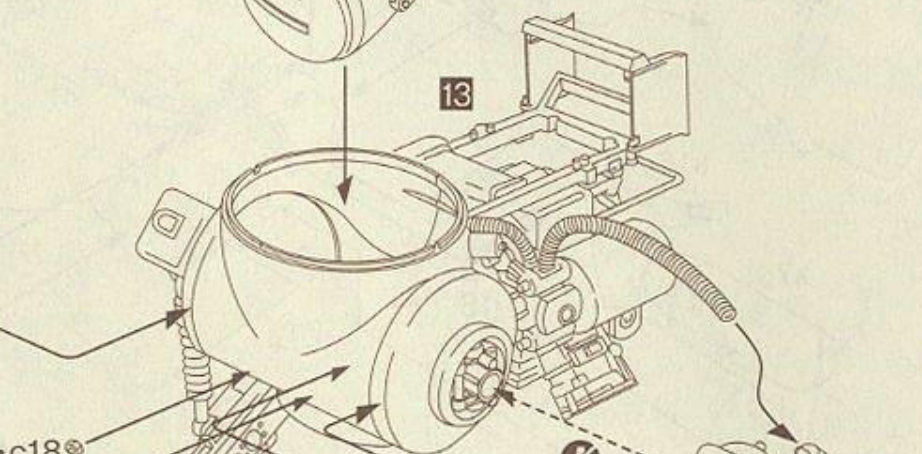
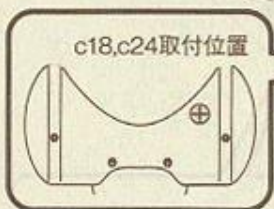
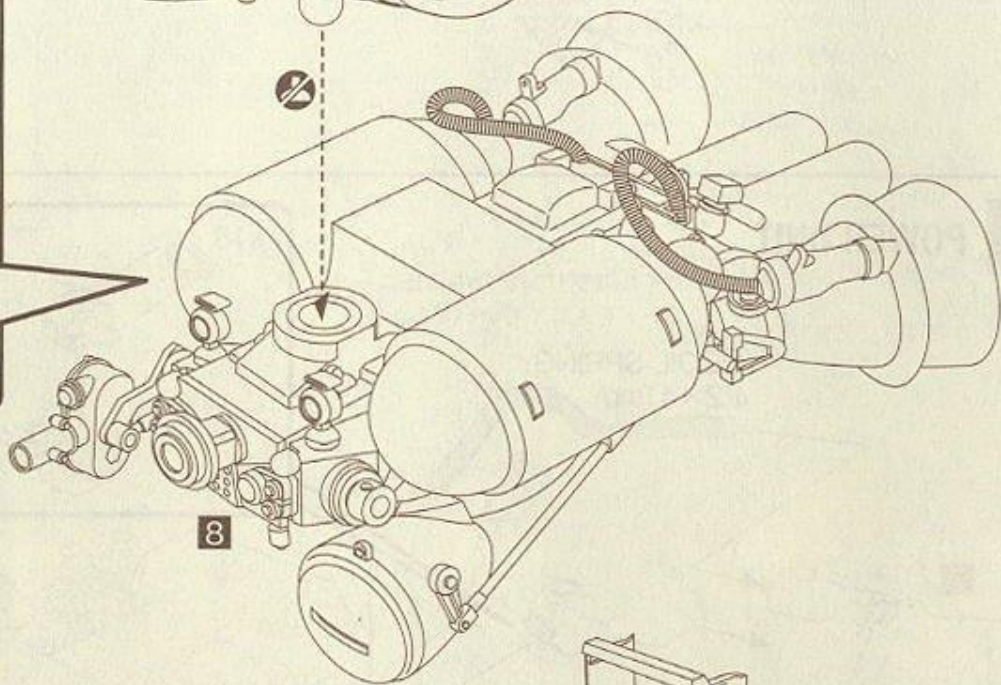
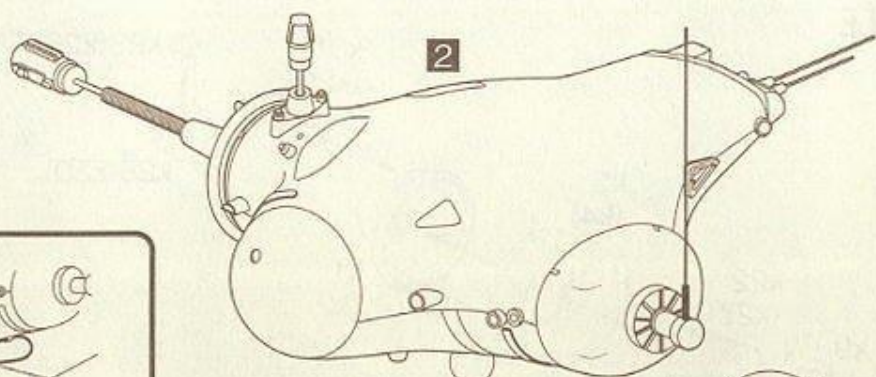
13 TRANSMISSION ARMOR



14 LEG



15 FINISH

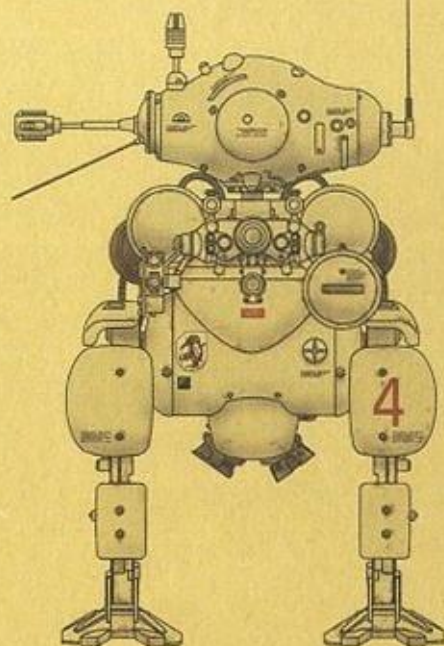
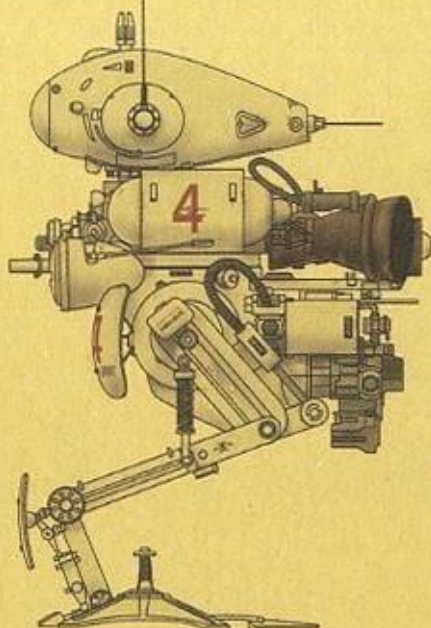


VINYL CORD
φ0.8×190mm

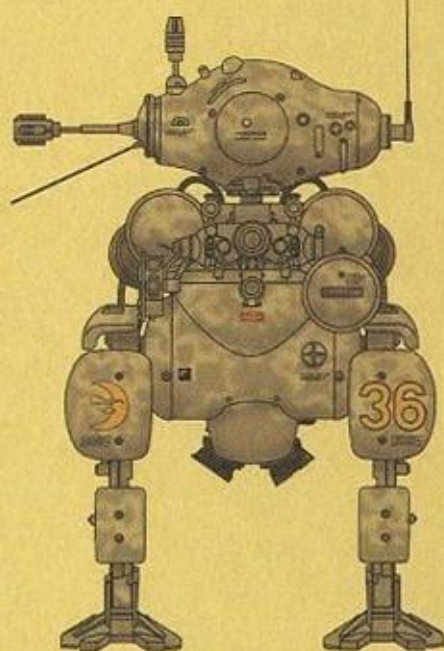
LUNA GANS

Pz. Späh 1124
Paint & Marking1 第55航空艦隊直卒 第3中隊
赤の4

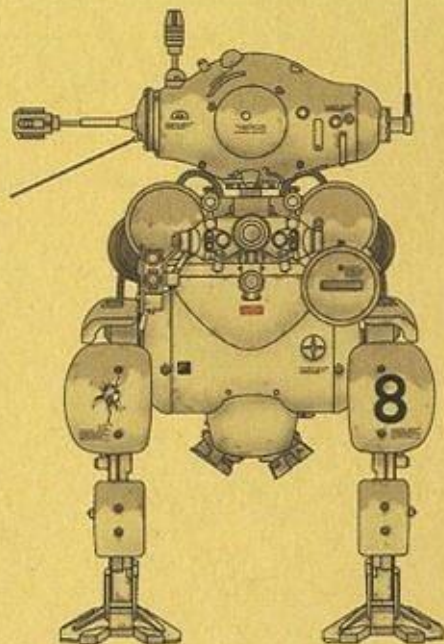
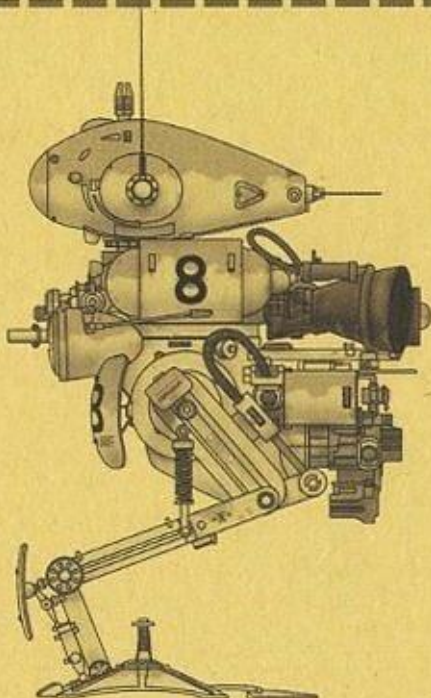
ルナガンズは月面専用の局地機という事で配備当初はバイス2をベースとした白に近い専用塗料が指定されていた。しかしこの専用色は熱反射性能が過剰で、予想外に機体表面の温度が上がらない事から、月表面温度との差異によって敵の熱感知センサーに反応しやすいという欠点明らかになり、以降オーバーペイントや迷彩が施される事となった。

2 第22降下猟兵団
黄の36

ごく初期から月面に配備されていた第22降下猟兵団の機体。配備当初は専用色の単色塗装だったが、後に現地でダークグレーのミラーウェーブ迷彩が施された。初期のルナガンズはレゴリスによる駆動系のトラブルに悩まされたが、可動部パーツに施す耐粉塵性コートの開発などにより、これを解消している。

3 第71偵察中隊第2小隊
シュヴァルツ テンツァー

第71偵察中隊第2小隊の機体。後期生産型のルナガンズの標準的な迷彩パターンであるウォームグレーのウェーブ迷彩が施されている。マーキングは「踊るカラス」。この機体は、マーキングのカラスを真似て片足を大きく上げたポーズで撮られた写真が有名である。

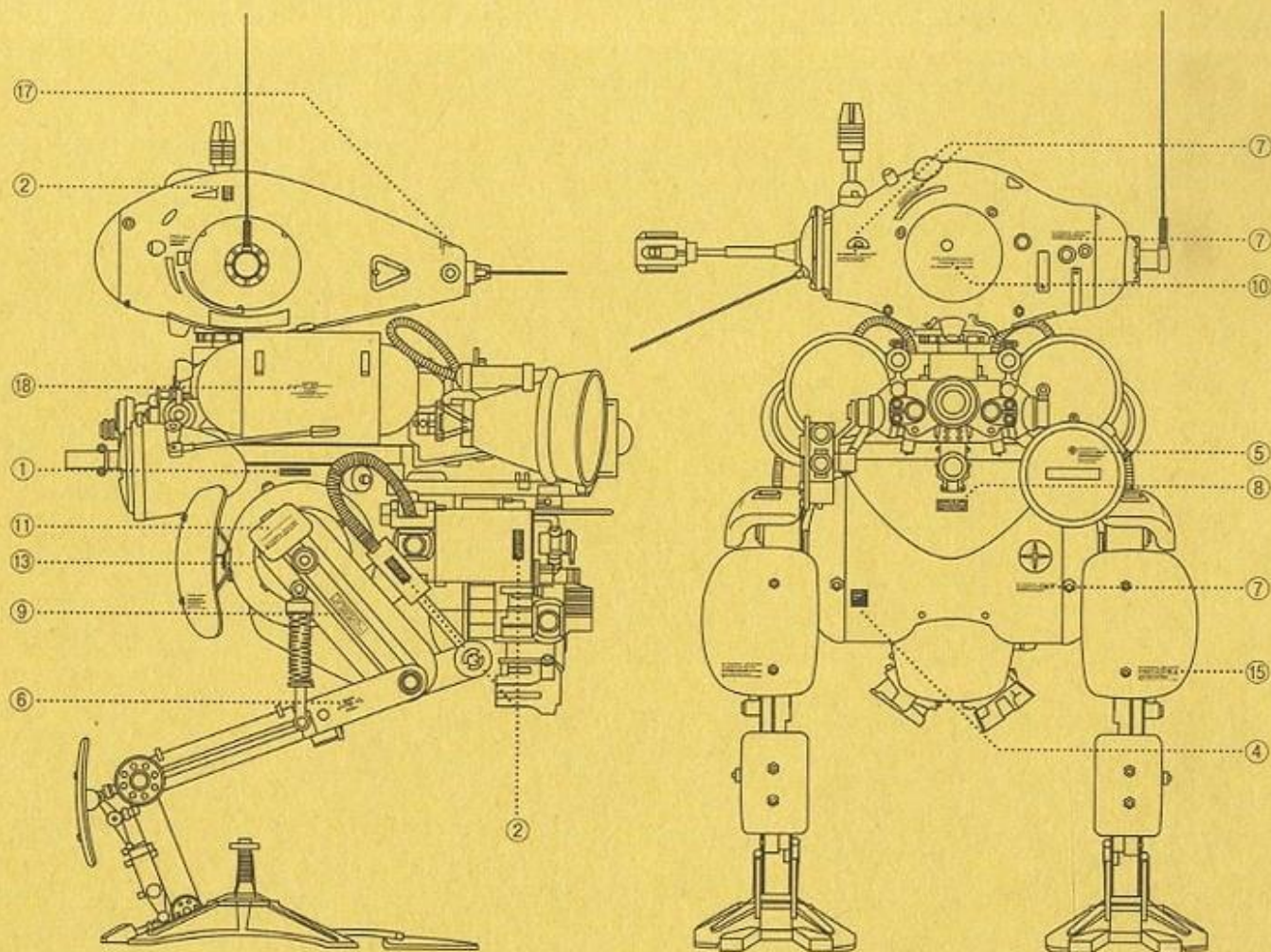


DECAL

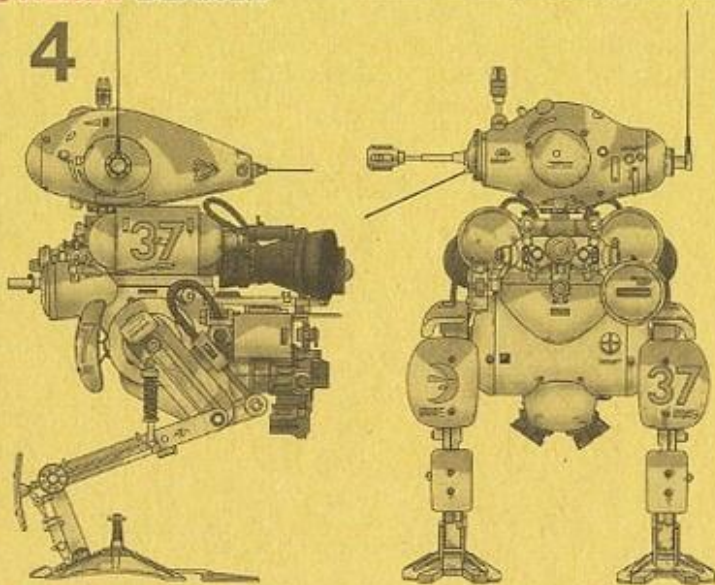
デカールの貼り方

◇貼りたいマークをハサミ等で切り取り、水に約10秒間浸します。台紙の端を手で持ち、貼る位置にマークをスライドさせてモデルに移してください。ピンセット等でマークを濡らしながら正しい位置へずらしします。布等でマークの内側に残っている気泡を押し出して定着させます。

◇とくに指示のないものはお好みに応じてご使用ください。



4

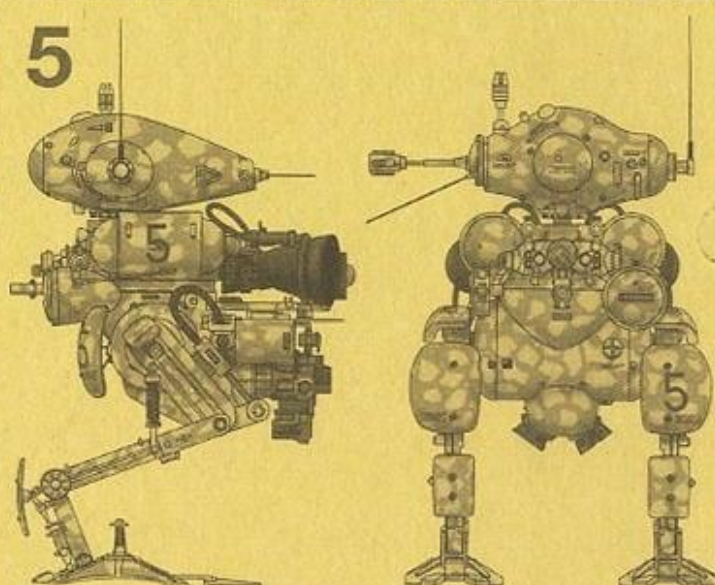


第22降下猟兵团
黄の37

塗装図2と同じ第22降下猟兵团の機体。極点近くに展開した同隊では、傭兵軍のセンサー対策として機体の表面温度を地表面に近づけるよう塗装で微調整した為、部隊内でも様々な迷彩パターンが存在する事となった。

このような現象は、初期配備の部隊では数多く見られている。

5



独立第900局地支援隊
赤の5

独立第900局地支援隊の機体。量産中期以降の機体で、現地ではなく工場で既に迷彩が施されていた。迷彩パターンはライトグレーに白のスポットパターンで、各部隊の運用データをもとに昼間部、夜間部それぞれの環境下での機体表面温度と、視覚効果に最適化されたものであった。